

地図にない過去を発見せよ

君たちの調査が地図を変える

過去の災害の記憶を伝える「自然災害伝承碑」。

現在、数多くの「自然災害伝承碑」が国土地理院に登録されています。しかし、日本にある全てが登録されているわけではありません。地域に眠る未登録の「自然災害伝承碑」を発見し、その教訓を未来につなぐこと。それは、中学生の君たちにも是非力を貸して欲しい極めて重要な防災研究です。このシートでは、先輩たちの研究成果を参考に、地域に埋もれた災害の記録を掘り起こす方法をお伝えします。

自然災害伝承碑について

「自然災害伝承碑」とは、過去に発生した地震、津波、洪水、土砂災害、高潮、火山災害等の自然災害に関する事柄（災害の規模や被害の状況、教訓など）が記載されている石碑やモニュメントです。当時の被災状況を伝えと同時に、当時の被災場所に建てられていることが多く、地図を通じて伝えることは、地域住民による防災意識の向上に役立つことが期待されています。国土地理院では、自然災害伝承碑を市区町村長からの掲載申請に基づき地図に登録し公開しています。

**地図記号**
※以前は、概念的に記念碑 [] (ある出来事や人の功績などを記念して建てられた碑やモニュメント) に含まれていました。

**地理院地図表示アイコン**
**地理院地図 (自然災害伝承碑を表示)**

概要	
碑名	水害碑
災害名	洪水・土石流 (1907年7月15日)
災害種別	洪水・土砂災害
建立年	1910
所在地	広島県安芸郡坂町小屋浦四丁目
伝承内容	明治40年(1907)7月15日、数日来降り続いた豪雨により天地川や総頭川で土石流が発生した。この未曾有の大災害により、小屋浦地区では43戸の家屋がつぶれ、44名の命が奪われた。 関連外部サイトへのリンク集
制限事項	

ID:34309-002



国土地理院による自然災害伝承碑の取り組み

事例紹介 >>> 地域住民に十分に伝承されていなかった過去の教訓

右の写真は、平成30年7月豪雨の災害現場です。向かって右上(赤枠)に、1907年に起こった洪水・土石流を伝える伝承碑があります。

この伝承碑は、100年以上前の水害を伝えるものでしたが、多くの犠牲者が出たこの地区では地域住民にその内容が十分に伝承されていませんでした。

【水害碑(広島県坂町)の伝承内容】

明治40年(1907)7月15日、数日来降り続いた豪雨により天地川や総頭川で土石流が発生した。この未曾有の大災害により、小屋浦地区では43戸の家屋がつぶれ、44名の命が奪われた。



平成30年7月豪雨での土石流被災地(広島県坂町)

1 研究事例から学ぶ自然災害伝承碑の分布が語る真実

自然災害伝承碑の分布を地図上で俯瞰することで、過去の災害の規模や特徴が見えてきます。

事例紹介 >>> 高校生による自然災害伝承分布の研究

三重県立松阪高校の郷土地理部では、自然災害伝承碑の分布に着目し、三重県内を調査しました。すると、自然災害伝承碑の分布は災害別に分類できました。



図1 三重県の
災害伝承碑の分布

A：桑名市・三重郡・四日市市 この地域の災害伝承碑は主に伊勢湾台風によるものである。1959年9月の伊勢湾台風は、台風災害として明治以降最多の死者行方不明者数5,098名に及び、犠牲者の8割は高潮の発生によって愛知・三重の2県に集中した。

B：鳥羽市・志摩市・度会郡 この地域の災害伝承碑は主に安政東南海地震による。1854年11月4日に東海地震、翌5日に南海地震が起き、伊豆から四国までの広範な地帯に死者数千名、倒壊家屋3万軒以上という被害が生じた。

C：度会郡・尾鷲市・熊野市 この地域の災害伝承碑は主に昭和東南海地震によるものである。この地震は1944年12月7日に起き、マグニチュード7.9を観測し、死者1,223人の被害が生じた。

D：紀宝町 この災害伝承碑は、2011年9月台風12号の大雨水害によるものである。

E：伊賀市 この地域の自然災害伝承碑は主に大豪雨によるもので、近畿大水害の山津波と安政の伊賀上野地震についての被害を記している。

F：名張市 G：伊勢市 H：多気郡

F・Gは伊勢湾台風、Hは2004年の台風21号による土石流・地滑りによる災害碑である。

「空白地域」から未登録の自然災害伝承碑を発見

調査をしていく中で、自然災害伝承碑が無い「空白地域」が見つかりましたが、そこは昔から洪水などの災害が多い宮川流域でした。

自然災害伝承碑が無いことに疑問を持ち、文献調査や現地調査をした結果、未登録の自然災害伝承碑を発見しました。（図1の★印）



【屋田地区の災害伝承碑の記録】 文政4年（1821）戸数22戸、人口122人、馬6匹であった屋田村は、明治18年（1885）の大洪水で堤防240間（436m）が決壊して壊滅的打撃をうけた。当時の惨状を書きとめた記念碑が、地区の薬師堂境内に建っている。土地の古老である山本勇さん（88歳）からお聞きしたによると、昭和30年頃には堤防道路上の、決壊箇所にあったが、交通量の増加に伴い危険であるということから、昭和30年代後半頃に現在の位置に移されたということである。

明治18年7月1日の天候

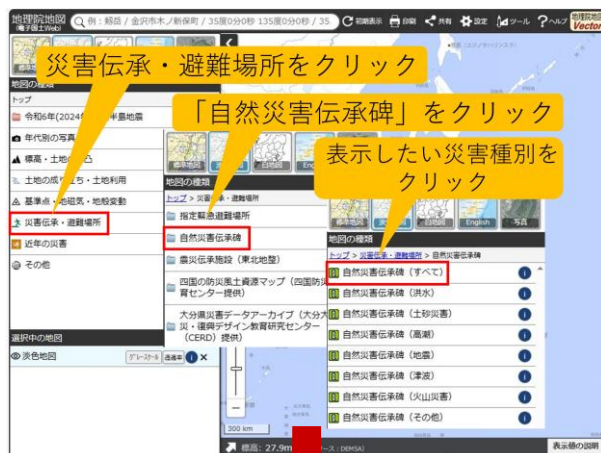
明治18年7月1日の天気図を見ると、台風が中心が紀伊半島にあり、勢力を保ちながら伊勢湾台風とよく似たコースで来襲していることがわかりました。夏の時期の台風なので、雨量が多かったと予想されます。この台風は大阪府淀川で大水害を引き起こしたほか、高知県、岐阜県、福井県などで災害を引き起こしています。

2 探せ！未登録の自然災害伝承碑

あなたの地域にも未登録の自然災害伝承碑があるかもしれません。調査候補を挙げて、探してみましょう。

やってみよう >>> 地理院地図で分布を確認しよう

地理院地図を使って、地域の自然災害伝承碑の分布を確認しましょう。

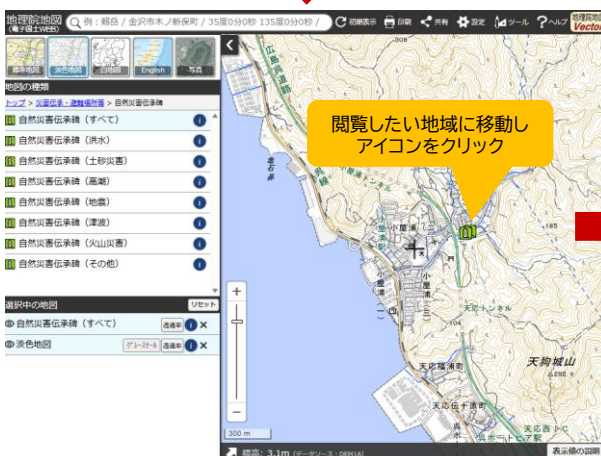


あなたの住む地域（または学校周辺）の自然災害伝承碑の分布には、どんな特徴がありますか？

- ☒ 川沿いに点在している
- ☒ 山の麓（ふもと）に並んでいる
- ☒ 特定の神社・仏閣に集まっている

考察

その分布は、どのような災害リスクを示唆していますか？
(例：ここまで津波が来た、急傾斜地 等)



それぞれの自然災害伝承碑の情報を確認できる

地理院地図 (<https://maps.gsi.go.jp/>)

事例紹介 >>> 石碑やモニュメントの建立場所の手がかり

1. 神社や寺院の境内

神社や寺院には、災害の慰霊碑や供養塔、復興碑が建てられていることが多い。



神奈川県平塚市長楽寺にある
供養塔（自然災害伝承碑）

2. 旧街道・古い交差点

昔の主要道路沿いには、道標を兼ねた供養塔などが残っている場合がある。



奈良県十津川村にある
警戒碑（自然災害伝承碑）

3. 地名

「蛇」「崩」「谷」「津」など、水害や崩落を連想させる文字が地名に入っている地区。



岡山県倉敷市にある
石碑（自然災害伝承碑）

やってみよう >>> 調査ターゲットを絞り込む

調査した中から有力なものを2つに絞りましょう。

Target1 (場所名：)
(選定理由：)

Target2 (場所名：)
(選定理由：)

候補を絞ったらフィールドワークの計画を立てましょう。

・当日のスケジュール ・調査の準備品（例）

- ・コース設定 ☐ スマートフォン、タブレット（地図、GNSS（GPSなど）確認用）
- ・役割分担 ☐ メジャー、拓本用具（石碑の文字を読むため）
- ・訪問先へ事前連絡 ☐ 記録用紙、カメラ
- ☐ 地域の方へのインタビュー準備

3 発見を教訓に変える

石碑を見つけることがゴールではありません。そこに刻まれた「過去の事実」から「現在の対策」を考えることが重要です。

君も「現代の語り部」に

もし未登録の自然災害伝承碑を見つけたら…

1. 記録する： 写真を撮り、碑文の内容を読み解く。
2. 伝える： 発表などにより周りの人に伝える。
さらに、市区町村へ伝えることで、自然災害伝承碑として地図に掲載される可能性もある。
3. 活かす： 実際に災害がおきたときの避難行動を考えてみましょう。

過去の人々が自然災害伝承碑に託した願いを、現代の私たちが受け止め、未来へつなぐ。地理的な防災研究の大切な意義がそこにあります。

<参考・引用情報>

国土地理院「自然災害伝承碑」公開ページ(<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi.html>)
国土交通省「重ねるハザードマップ」(<https://disaportal.gsi.go.jp/>)
2024年日本地理学会春季学術大会高校生ポスターセッション発表事例より
(<https://www.qjg.or.jp/20240513/20966/>)

令和8年10月作成